

緊急金融支援の対象広げ、もつと借りやすく 総括質疑で日本共産党の上野議員が要求

6月議会が1日からはじまりました。初日は、市長の提案理由の説明、常任委員長の報告、人事院勧告に関連する条例審査、討論、採決などが行われました。

総括質疑には公明党の杉田議員と日本共産党議員団の上野議員が登壇しました。上野議員は、緊急融資支援と上越市一般職の期末手当・勤勉手当のカットについて質疑を行いました。

上越市は昨年11月以降、信用保証料補助制度の拡大、経営改善支援資金緊急金融対策特別枠の創設と同資金への利子補給、さらに、元金の返済猶予及び全ての市制度融資の借換えを可能にするなどの対策を講じてきました。

上野議員はまず、これまでの緊急金融支援策の総括を木浦市長に求めました。市長は、「経営改善支援資金において、一般枠と特別枠を合わせ、昨年12月から本年3月までに当初の見込みをはるかに上回る565件、約50億円の利用があった」ことを明らかにし、中小企業の資金繰りの緩和のための資金需要にこたえることができたことと答えました。

融資枠の拡大について上野議員は一定の評価をしつつも、「売り上げ見込みを含む資金繰り計画書の提出を求められた」「税金の滞納があり、融資を認めてもらえなかった」などの事例をあげ、より借りやすい環境をつくることを求めました。



市税の滞納や金融機関の滞納があったり、状態の中で融資を必

要としている事業主の声にこたえるよう訴えたのです。これに対して澤海産業観光部長は、「さうなる踏み込みが可能かどうか精一杯研究してまいりたい」と答弁しました。大いに期待したいと思います。

夏季一時金カット 一般職は1億3000万円の減収

いまひとつ、総額1億3000万円にもなる市の一般職の夏季一時金カット問題。上野議員は、「内需拡大、消費活性化が求められている時にこれと逆行する一般職の夏季一時金を削減することは、市内の消費拡大に水を差すものだ」として、市内の消費動向への影響を問いました。市長は、「減額の規模から見ると、影響が全くないとは言えないが、民間企業における夏季一時金の大幅な減額がうかがえる中で、民間と公務員の一時金に大きな乖離を生じさせないように実施するものだ。消費動向への影響を懸念して手当を減額しないとすれば、市民の皆さんの理解は到底得られない」と答えました。上野議員は再質問などで、「まだ民間企業従業員

ベースでの約70%の民間企業が一時金の支給について未定であるときに減額措置をとることは問題がある」「人事院勧告やそれに基づく人事委員会の調査結果は十分とは言えない」などと反論しましたが、消費を冷え込ませる形で官民の一時金格差を「是正」するのは問題だと思えます。

今回の夏季一時金カットは一般職だけでなく市長、市議会議員など特別職についても対象です。日本共産党議員団は上越市内の経済への影響、市民世論はどうかなど議論を重ね、地域経済に大きな影響を与える一般職については反対し、特別職については賛成しました。

株ゆったりの郷、入館者減るも単年度黒字

4日の市議会厚生常任委員会と同委員会所管の第三セクターの経営状況が明らかにされました。株ゆったりの郷については、昨年度の入館者数は7万4771人（前年度比8.8%減）、当期利益は118万円となっています。累積欠損金はなく、「ゆったりの郷ならではの地道な努力がみのりつつあります。

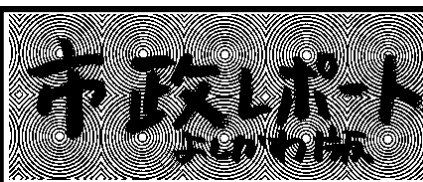
株みなもとの郷も黒字

スカイトピア遊ランドをかかえる株みなもとの郷も健闘しています。3日の文教経済常任委員会に示されたデータによれば、宿泊は若干減少しているものの、体験交流センター、スーパースライダーが伸び、利用者数は前年度よりも400人ほど増えて9525人となりました。当期利益は30万円で、こちらも単年度黒字でした。

ただし累積欠損金は398万円あります。（写真はサワハコベ）



【吉川小学校運動会50メートル走】先月23日の運動会スナップです。喜びいっぱいの表情で走る子どもたちの姿がとても印象に残りました。1年生のレースではゴール地点に保護者カメラマンがずらりと並びました。



NO 1400
2009.6.7

発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪法一
TEL 548-3628 (有線) 4867
E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp
URL http://www.hose1.jp/

春よ来い 第一〇四回 特別参加

わが家の次男が結婚し、先日、結婚式と披露宴を行いました。私たち夫婦の子としては一番最初です。若いふたりが数か月間にわたって準備をしてきましたので、どんな企画で行われるのかとても楽しみでした。

結婚式はホテルのチャペル（キリスト教式の結婚式の雰囲気での施設）で執り行われました。花嫁は純白のウエディングドレス、新郎は白のタキシード姿です。パーズンロードを歩く次男は背筋を伸ばし、いつもより背が高く感じられました。自分の子が大きくなって新しい旅立ちをする姿はいいものですね。

ふたりは家族、親戚、中学・高校時代の友人、元の職場の同僚など大勢の人たちが見守る中で結婚の誓いをしました。さぞかし緊張するにちがいないと思っていたのですが、ふたりが発する言葉は明瞭で、しかも落ち着いていた雰囲気がありました。緊張したのはむしろ私の方です。私は妻と最前列に座って参列しましたが、新郎新婦が退場した後、一番最初に席を立ったり、パーズンロードを歩くのかどうか迷ったり……。

式が終わってからは予想外の展開でした。チャペルを出てホテルのガーデン（庭）で参列者全員が風船を持ち、新郎新婦の合図でいっせいに飛ばしました。ガーデンはビルの谷間といった空間です。大空に飛び立っていく風船は希望を感じさせてくれます。みんなが空を見つめ、笑顔になりました。そして、同じ場所でも記念撮影。カメラマンは参列者を見下ろす位置から撮りましたので、参列者はチャペルを見上げる姿勢で写っているはず。次男によると、参列者へのお礼に使うのだとか。中学時代から「みんなで何かをする」経験を積んできたふたりならではの企画でした。

披露宴は涙の連続でした。この日の披露宴には八五歳の母と九〇歳を超えている新婦のおばあちゃんも参加してくれましたが、新郎新婦からこの二人へのプレゼントがありました。母は何も知らされていなかったようで、こぼれ落ちる涙をハンカチでふきつけていました。新婦のおばあちゃんも泣きっぱなしでした。

披露宴には四月に他界した父も特別参加です。孫の結婚式を誰よりも楽しみにしていたのは父でした。披露宴では「三ころ突き」か「長持唄」を歌って盛り上げてあげたい。父が元気であれば、そう思っていたにちがいないと感じた妻は、結婚式の一週間ほど前、「ねえ、じいちゃんにも結婚式に出てもらおうよ」と私に声をかけてきました。妻の提案は父の写真を持参することでした。もちろん、私は大賛成です。

父の写真は母がいるテーブルの上に置きました。礼服を着て、白いネクタイをつけた写真です。小さな額に入れ、新郎新婦の席の方に向けて立てました。これなら若いふたりの晴れ姿が見えます。スライドで大きく映し出された孫の顔も見えたはず。そして父の順番がやってきました。参加者のトップをきいて「長持唄」を披露してくれたのです。これは音声参加。「アーアーツ、きょうはなアーツ」スピーカーから流れ出る歌声は喜びにあふれていて、会場に響きわたりました。

結婚式、披露宴ではふたりの成長した姿を確認できました。これが何よりもうれしい。次男はしゃべるのが苦手だったのに、いつのまにか余裕を持ってスピーチできるようになっていました。スライドを使った新郎新婦の紹介をじっと見ていたら、ふたりの息はびったりでした。最後の新郎の挨拶。どんなにうれしいことがあっても、名前のおり生きていけば元気になる、笑顔が出ますと挨拶しました。そういえば、この日、ふたりは最初から最後まで笑顔がいつぱいでした。

国政も変えないと市民生活は良くなるか



5月に取り組んだ「橋爪法一を囲む会」には、日本共産党上越地区委員会農民部長の橋本正幸さんからも3回ほど参加してもらいました。

「囲む会」では、暮らしに関

わるいろんなことが話題になります。

4月からスタートした上越市の介護保険事業計画のなかで特別養護老人ホームが1施設100床しか計画されていないことを私が報告したところ、参加者の方から「もっと施設を増やせないのか」等の声が出ました。橋本さんは、「国は福祉関係予算を毎年減らし続けている。こうした施設を増やすと介護保険料にはね返ってくる仕組みも問題だ。市内には入所待ちの人たちが1100人ほどおられるが、高齢化社会なのだからもっとこういうところに財政出動するようにしないとイケない」とのべていました。

昨年12月に上越市介護保険課が実施した市内の介護施設に働く人たちの実態調査によると、介護職員の正社員のうち、採用後、1年以上3年未満で離職する人が45.7%にもものぼっています。このことを報告すると驚きの声が上がります。日本共産党は、月額3万円の賃上げを利用料からではなく、国の責任で行うべきだと主張していますが、実現できるかどうかは国政への影響力を強められるかどうかにかかっています。

参加者の一人の方が「国政も変えないとだめだね」と言われていましたが、その通りだと思います。

空襲の日、父は抱きしめてくれた

柿崎区出身の方から1945年5月5日の直江津空襲体験談を寄せていただきました。以下はこの人の話。

私も信越化学に勤めていました。そこには外国の捕虜の人たちが大勢働いていました。溶鉱炉などで仕事をしていたように思います。お昼に弁当を食べていると捕虜の人たちがこれをほしがってね。空襲の時、米軍機は工場を直接狙ったのではなく、捕虜がいたからわざと外したのではないのでしょうか。落ちたところにいた人たちは本当にお気の毒でした。爆弾が落とされてから、私の記憶では歩いて阿弥陀瀬まで帰ったと思います。私の家からは黒井の方面がよく見えたんですよ、当時は。黒井がやられたことはすぐ分かったのだと思います。私が家に帰ると、父は「生きていたのか。よかった」と言って抱きしめてくれました。